

くすりと健康のはなし

薬包紙

第109回

在宅介護委員

中野雄介

一般社団法人岐阜県薬剤師会



皆さん、薬を飲み込むのが大変だと感じたことはないでしょうか。皆さんが飲んでいる薬は、その大きさとその剤形しかないわけではありません。また、飲み込みやすくする工夫もたくさんあります。

薬が飲み込みにくい場合の対応として①小さい製剤に変更する ②ドロライシロップ、口腔内崩壊錠など他剤形に変更する ③服薬補助ゼリーやオブラートを使用する ④とろみ水（とろみ剤でとろみをつけた水）で服用する ⑤服薬時の姿勢を整えるなどの工夫があります。

①や②については、ジェネリック医薬品メーカーが同じ成分・効能・効果でより服薬しやすい工夫を施している場合があります。小さい製剤もあれば口腔内崩壊錠というラムネのように飲める錠剤もあります。同等の品質をもつ粉やシロップ製剤が発売されている場合もあるため、飲みづらさを感じている場合は一度かかりつけの薬剤師に問い合わせてください。

③や④については、薬の飲みづらさを改善します。服薬補助ゼリーはゼリーで薬を包み込むようにして服

薬を飲み込みにくいと思ったことはありますか？

用することで錠剤・カプセル剤が飲みやすくなります。オブラートは苦みのある薬や散剤に効果的で、薬をオブラートで包むことで苦みや粉の不快感を感じにくくなります。とろみ水は服用する水やお茶でむせてしまう方に効果的で、とろみ水がゆっくり食道に到達するためむせずに薬剤を服用することができます。いずれの方法も服薬補助剤を正しく使用することで飲みづらさを改善するため、購入時には薬剤師、登録販売者に使用方法を確認してください。

⑤については、首の角度に注意が必要で、よく「水と一緒に飲むために上を向いて服薬する」という声を聞きますが、その姿勢だと気道が閉じにくく、むせる原因になります。服薬する際は顎を引いてうつむき加減の姿勢で服薬することを試してみてください。

薬剤師は薬の大きさや他剤形の有無、服薬法を熟知しているため飲みにくいと感じている薬を飲みやすく工夫することは得意分野です。もし飲みづらさを感じていたら是非かかりつけの薬剤師に相談してください。